

特集

# インド調査報告 インドの芸術と信仰

東西交渉史研究会

本特集は、2002年度に発足した東西交渉史研究会（代表：松枝到）が3年間の活動を締めくくる形で、その研究成果を問う報告集である。本研究会は、研究活動のフィールドを「インド世界」におき、美術史と宗教誌の領域において、現地調査を母体とした地道な資料収集活動を継続的に実施してきた。具体的には、古代インド仏教美術の成立をめぐる問題、現代ヒन्दゥー教およびイスラーム教の動向、そして南アジアと他の世界をつなぐ民族移動の文化史等が、常に研究メンバーたちによって討議された。その検証手段としてフィールドワークが行われてきたのだ。

研究活動の概ねを以下に記すと、まず初年度の2002年度は、南インド地方を除く主要な博物館の予備調査をムンバイ、コルカタそしてデリーにおいて行った。翌03年度では、東インドと西インドにおいて仏教美術と宗教に関して本調査を行っている。そして04年度は、報告書の作成と



---

東アフリカ、中東（オマーン）そして南アジア（インド、パキスタン）における「インド世界」の補足調査が主たる活動となる。

ここにはじまる「インドの芸術と信仰」のタイトルを冠した本特集では、03年度に実施したインド現地調査での諸成果を中心に掲載する。有志学生の参加も認めて合同で行った本調査では、良い意味でもその逆の意味でも、インド世界の懐の大きさをあらためて実感させられた。旅行書、図鑑や映画の中では出会えない、生きたインド人がそこにはいるからである。意識的であれ、無意識にであれ、先祖たちが築いてきた偉大な文化遺産を受け継いでゆくのはインド人自身である。現地調査では、常にこの現実を直視せずには何事もうまれなかった。以上のことから本特集は、インド人世界と我々研究員との間で営まれてきた、小さな「東西交渉史」の一章にあたるものとなるにちがいない。

---